

て直そうと、照島が、大きく肩でひと息ついたとき、それまで相手にさからわずに、守ってばかりいた四郎が、相手の柔道着をがっちりとつかんで、照島をひきずりはじめました。

ずるずるとひきずられた照島が、あわてて技をかけるようにすると、四郎は左手で相手の左えりをとり、右手で相手の左そでをつか

